

土佐のわらべ

第411号《第433回（2016. 1. 14） 子どもの本の読書会記録》参加者6人・文書参加5人

『富士山うたごよみ』 俵 万智／短歌・文 U. G. サトー／絵 福音館書店

数年前この本を見かけた時は「ポップな富士山の絵本だな」と思っていました。その後、あらためてじっくり再読したところ、なんて素敵な絵本！！これはぜひ読書会で採り上げてもらいたい。それも新春1月でなくては！！でも、参加者の皆さんは「短歌・俵万智・ハードルが高い・・・」「俵万智の歌の世界の感想なんて、難しすぎる」と、心配されていたようです。なので、美しくユーモアあふれる富士山の絵が表紙の本を手にした時は、これなら読めると、ほっと胸をなでおろしたのだとか。

U.G.サトー氏の絵は、鮮やかでユーモラス。想像力が刺激され愉快です。どのページにも富士山が隠れていて、小さな子どもでもそれを探しながら楽しめます。

俵さんの『サラダ記念日』をリアルタイムで読んで衝撃を受けていた年代の方からは「あの恋の歌が、絵と解説でこんなにもイメージが違って感じられるなんて驚きです」「心に響く歌は、その時々々の年齢で違ってくるものだと思う」という声。若い世代の方からは「五感で感じることをギュッと凝縮している言葉ですね。俵さんの他の歌も読んでみたいです」「愛情豊かな歌の世界を、読み手に素直に伝えられていて、言葉が光っている」と、歌にこめられている作者の思いと、言葉のエッセンスを受け止められたようです。

大暑の『まだ何も書かれていない予定表 なんでも書けるこれから書ける』は、子どもたち（のみならず）に向けてのメッセージ。「目の前に、大きな未来が開けているよ」と、話しかけているようです。

「国語の授業を苦手だと感じている子どもたちにごそ、こういう本に出会って、日本語の美しさに気づいてもらいたい」という思いの方も。苦手意識を

乗り越えて、興味を持ってもらえると嬉しいです。ね。「二十四節気は、天気予報で聞くぐらいだった。自分の周りの四季折々の景色を見直したいです」という声も。日々の生活の中で、何気なく感じている些細な事に喜びを感じて、一日嬉しい気持ちでいられるように過ごしていきたいものです。

カバー裏の返しに松居氏が「この本は画文一如の本です」と書かれています。この本が生まれる、そもそものきっかけはどういうことだったのでしょうか。失礼ながら、福音館書店の編集部に連絡をとって見たところ、編集担当の方から丁寧な説明を頂きました。担当者さんご自身がU.G.サトー氏の富士山のポスター画を好きだったんですね。「画家の、面白い大胆な発想の絵と絵本をどうつなげていくか。二十四節気の暦をあわせよう。暦の説明だけでは弱い。俵さんの短歌が好きなので、暦に合わせて、俵さん自身に今までの作品の中から歌を選んでもらい、子どもたちにも分かりやすいエッセイを書いてもらった。絵と言葉のリズムや響きを、子どもから大人まで多くの方に楽しんでほしいと願います」ということでした。担当者さんの「好き」「インスピレーション」「つなげる力」、それらが相まって、このような素敵な本を、私たちは手にすることができたのですね。折に触れて読み返し、自分の感性の有り様を振り返ってみたい、そんな大切な一冊となりました。

このレポートが皆さんのお手元に届くのは立春の頃でしょうか？立春の短歌は『春一番の思いよ届け 青空はあなたに続く色の階段』。「まっすぐで深い感じが好き」という感想も聞かれました。年の初めに素敵な本に出会えた読書初めでした。今年も良い本にたくさん出会えますように！！

(C.O)